

平成29年度 第4回  
ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

平成30年 3月  
岩手県保健福祉部地域福祉課

# ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

## I アンケートの趣旨

県では、「すべての県民が安心して生活し、かつ、等しく社会参加することができる豊かで住みよい地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、これまで誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

## II 調査実施期間

平成29年12月26日（火）～ 平成30年1月18日（木）

## III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

## IV 調査対象

平成29年度希望郷いわてモニター276名

## V 回答者数

209名

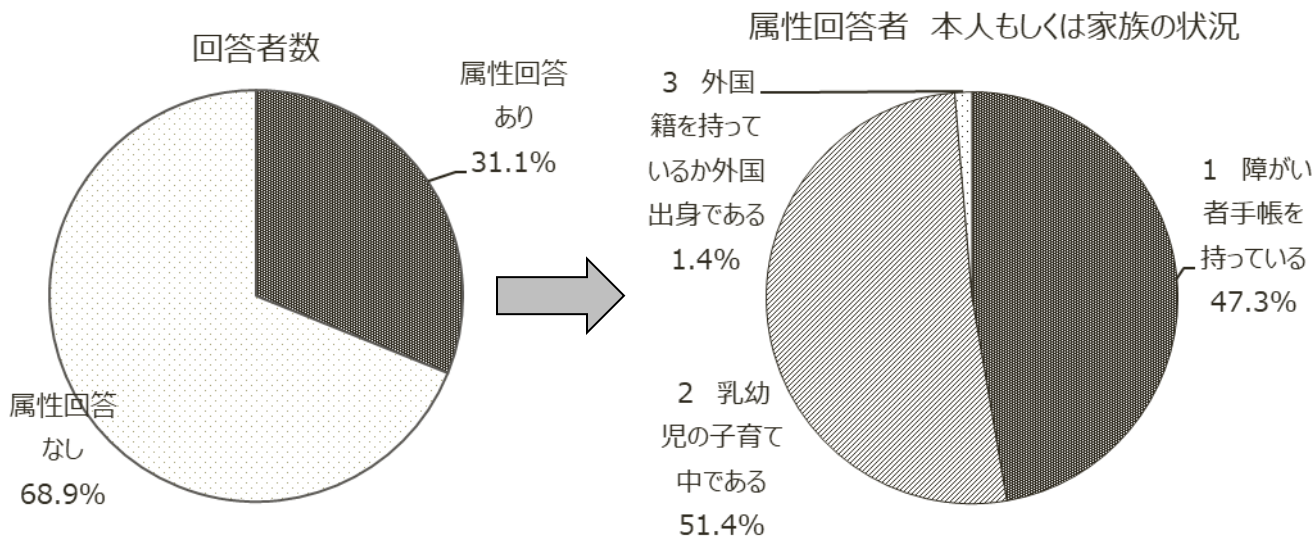
## VI 回答率 75.7%

## 回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	65	31.1%
属性回答なし	144	68.9%
合計	209	100.0%

### <属性の内訳> (重複あり)

	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	8	10.8%	27	36.5%	35	47.3%
2 乳幼児の子育て中である	20	27.0%	18	24.3%	38	51.4%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	1	1.4%	1	1.4%
合計	28	37.8%	46	62.2%	74	100.0%



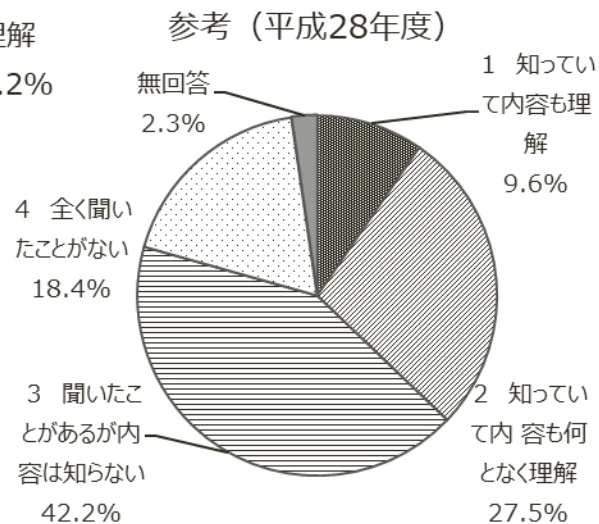
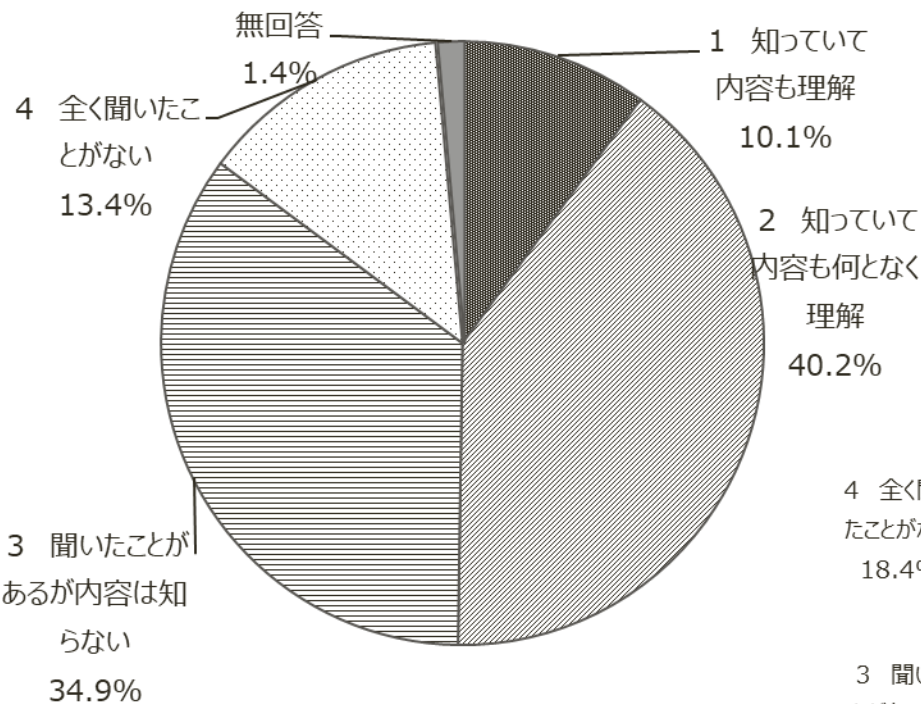
### 【調査結果】

属性の回答があった方のうち、9割以上の方が、本人か家族が障がい者手帳を持っている又は乳幼児を子育て中である。

## 問 1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解	21	10.1%	21	9.6%
2 知っていて内容も何となく理解	84	40.2%	60	27.5%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	73	34.9%	92	42.2%
4 全く聞いたことがない	28	13.4%	40	18.4%
無回答	3	1.4%	5	2.3%
合計	209	100.0%	218	100.0%



### 【結果概要】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している（「何となく理解」も含む。）方は5割程度であり、平成28年度と比べ、13.2ポイント上昇した。

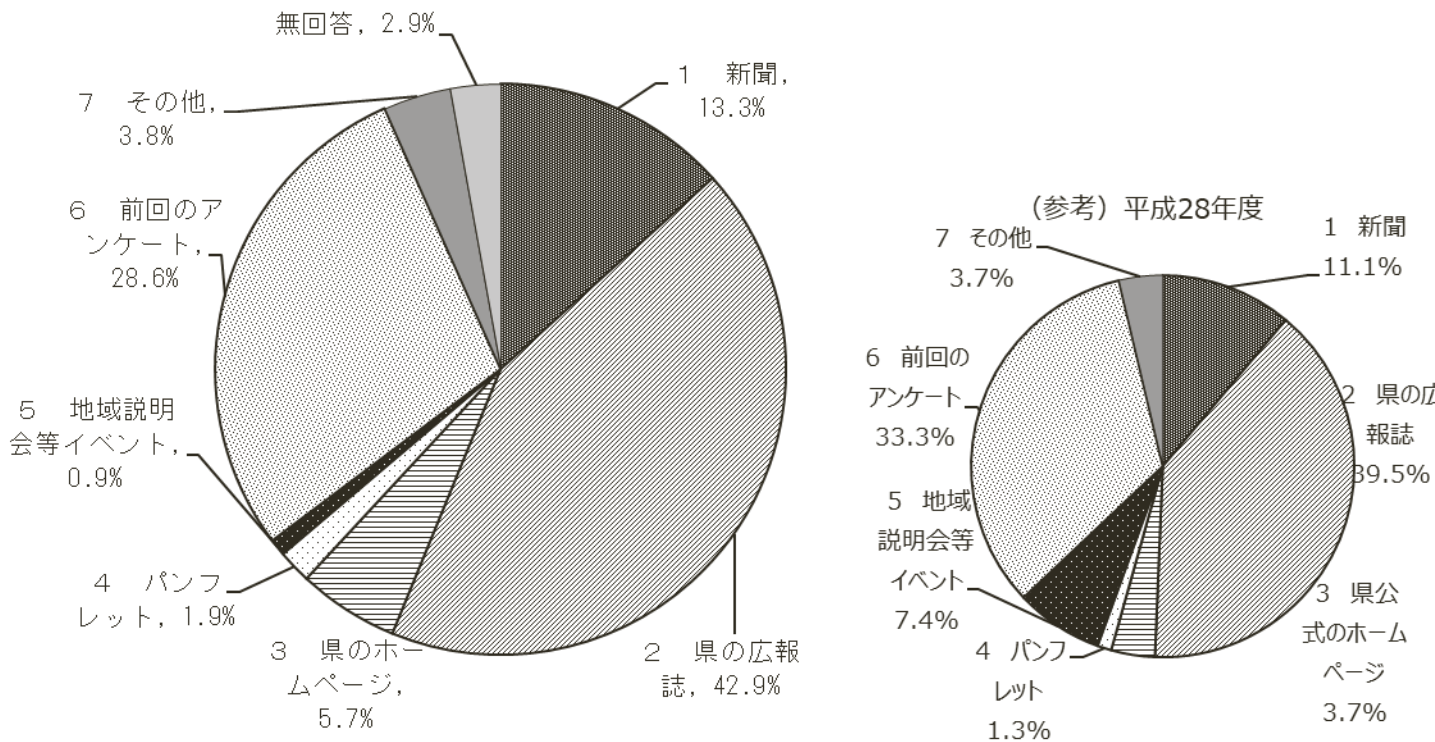
## 問 2

問 1 で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	14	13.3%	9	11.1%
2 県の広報誌	45	42.9%	32	39.5%
3 県のホームページ	6	5.7%	3	3.7%
4 パンフレット	2	1.9%	1	1.3%
5 地域説明会等イベント	1	0.9%	6	7.4%
6 前回のアンケート	30	28.6%	27	33.3%
7 その他	4	3.8%	3	3.7%
無回答	3	2.9%	0	0.0%
合計	105	100.0%	81	100.0%

< 7 その他の主な内容 >

「ヘルパー2級や住環境コーディネーターの講習」、「仕事の関わり」など



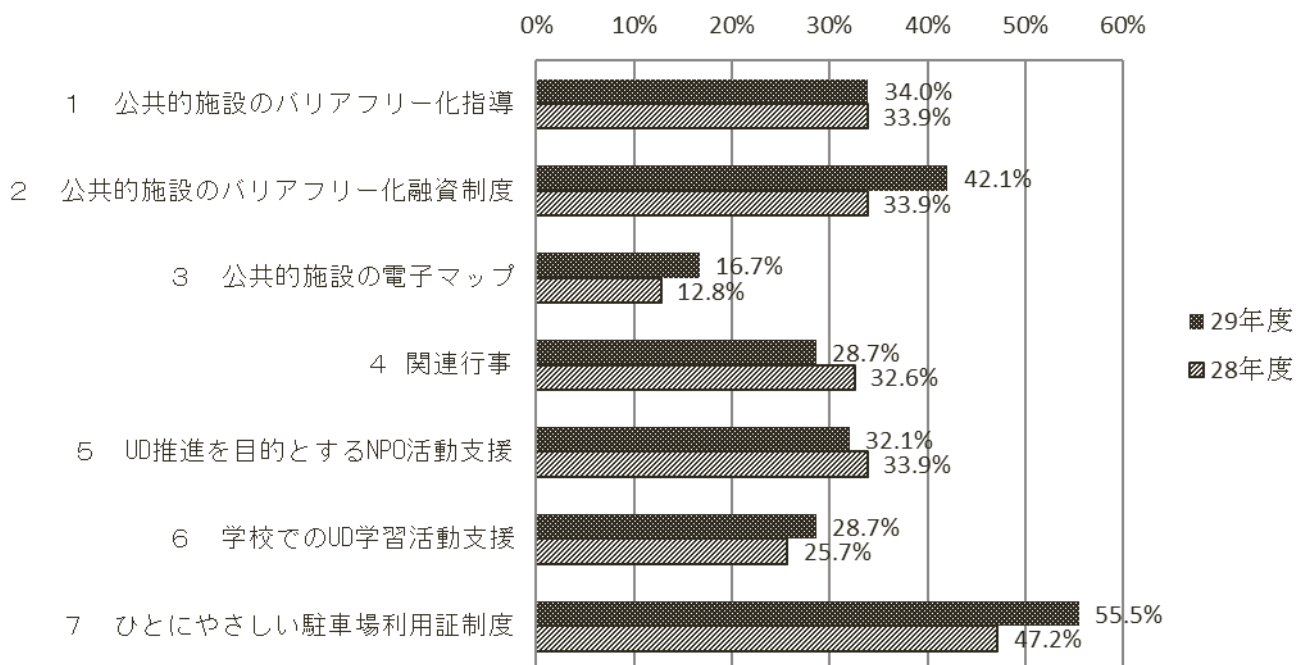
### 【結果概要】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、広報誌を挙げるケースが多く、今後も啓発を継続する必要がある。

### 問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	71	34.0%	74	33.9%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	88	42.1%	74	33.9%
3 公共的施設の電子マップ	35	16.7%	28	12.8%
4 関連行事	60	28.7%	71	32.6%
5 UD推進を目的とするNPO活動支援	67	32.1%	74	33.9%
6 学校でのUD学習活動支援	60	28.7%	56	25.7%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度 (回答者実数計)	116	55.5%	103	47.2%
	209	—	218	—



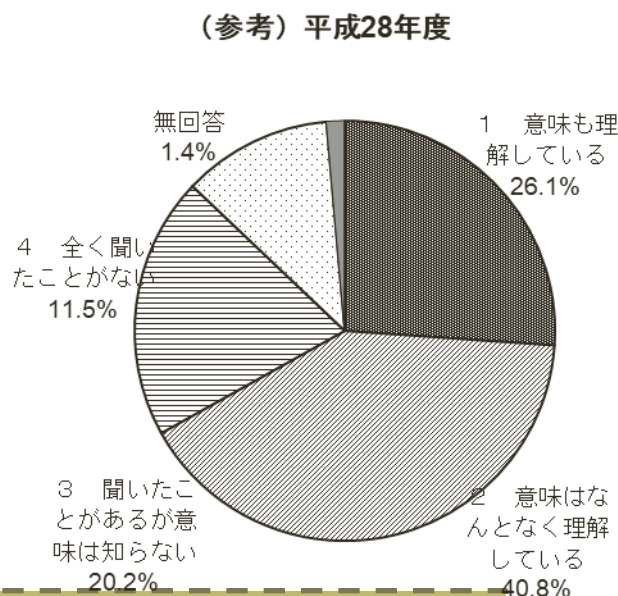
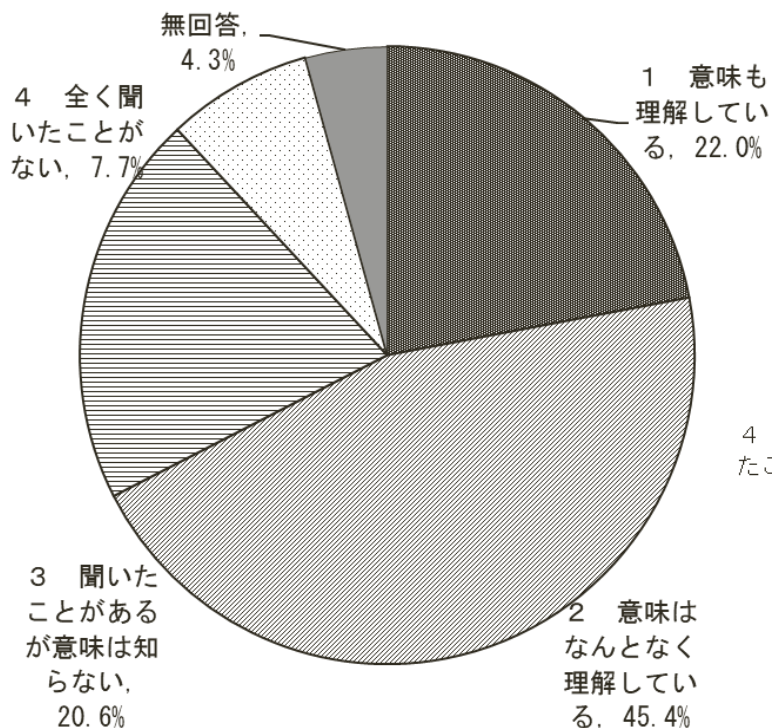
#### 【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度は55.5%と半数以上に上る。

## 問 4

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 意味も理解している	46	22.0%	57	26.1%
2 意味はなんとなく理解している	95	45.4%	89	40.8%
3 聞いたことがあるが意味は知らない	43	20.6%	44	20.2%
4 全く聞いたことがない	16	7.7%	25	11.5%
無回答	9	4.3%	3	1.4%
	209	100.0%	218	100.0%



### 【調査結果】

平成28年度に引き続き、「ユニバーサルデザイン」という言葉を聞いたことがあり、意味を理解(「なんとなく理解」も含む。)している方の割合は7割程度であり、依然として3割程度の方々には理解されているとは言い難い状況にある。

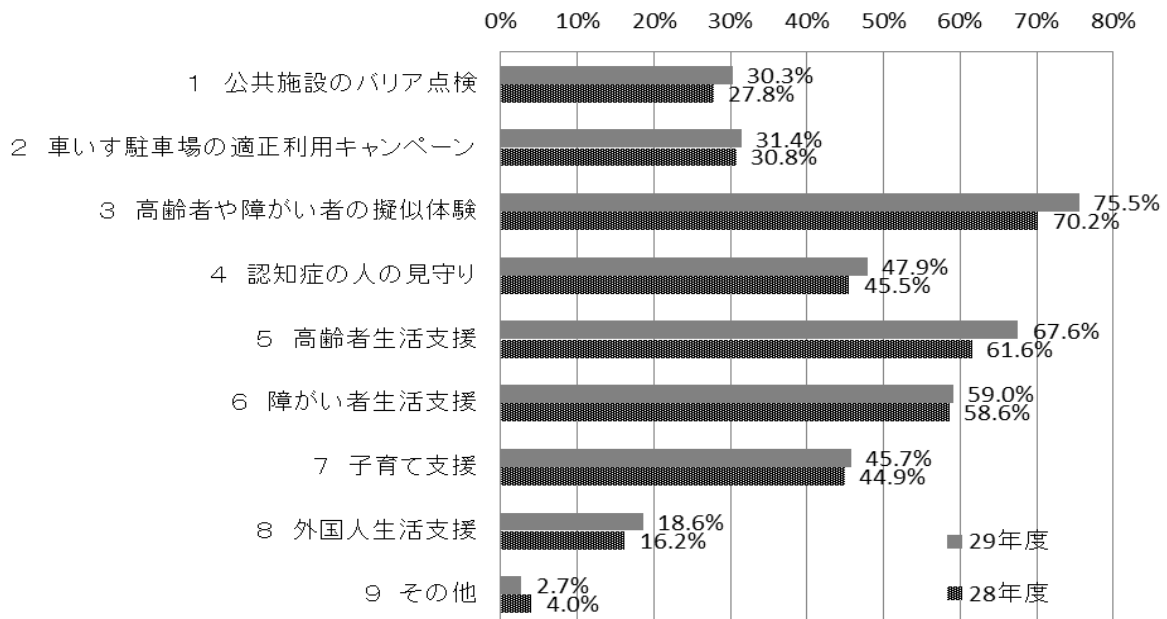
## 問5

まちで以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	57	30.3%	55	27.8%
2 車いす駐車場の適正利用キャンペーン	59	31.4%	61	30.8%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	142	75.5%	139	70.2%
4 認知症の人の見守り	90	47.9%	90	45.5%
5 高齢者生活支援	127	67.6%	122	61.6%
6 障がい者生活支援	111	59.0%	116	58.6%
7 子育て支援	86	45.7%	89	44.9%
8 外国人生活支援	35	18.6%	32	16.2%
9 その他	5	2.7%	8	4.0%
(回答者実数計)	188	—	198	—

< 9 その他の内容 >

絵本の読み聞かせ活動、傾聴活動



### 【調査結果】

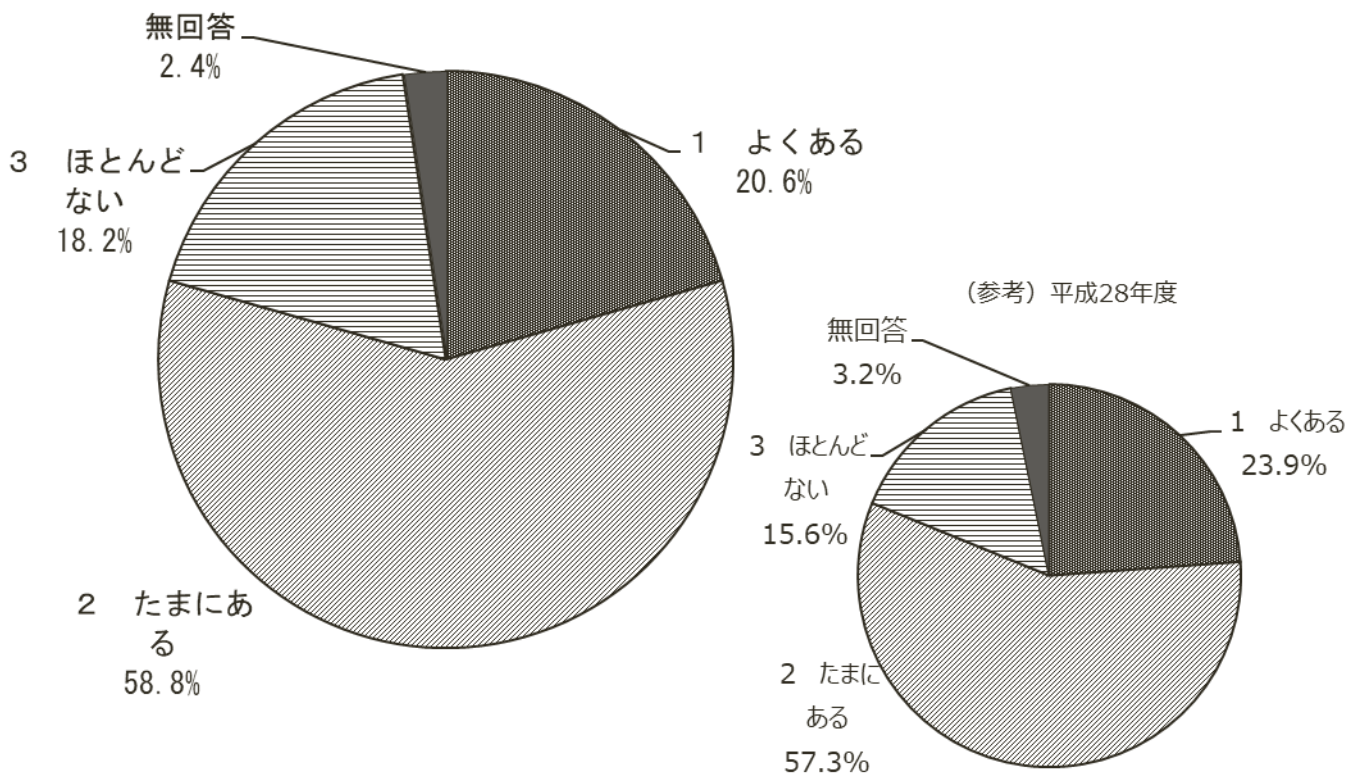
平成28年度に引き続き「高齢者や障がい者の疑似体験」と「高齢者・障がい者の生活支援」と答えた方が多い。



## 問6

まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）や移動するときにバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よくある	43	20.6%	52	23.9%
2 たまにある	123	58.8%	125	57.3%
3 ほとんどない	38	18.2%	34	15.6%
無回答	5	2.4%	7	3.2%
計	209	100.0%	218	100.0%



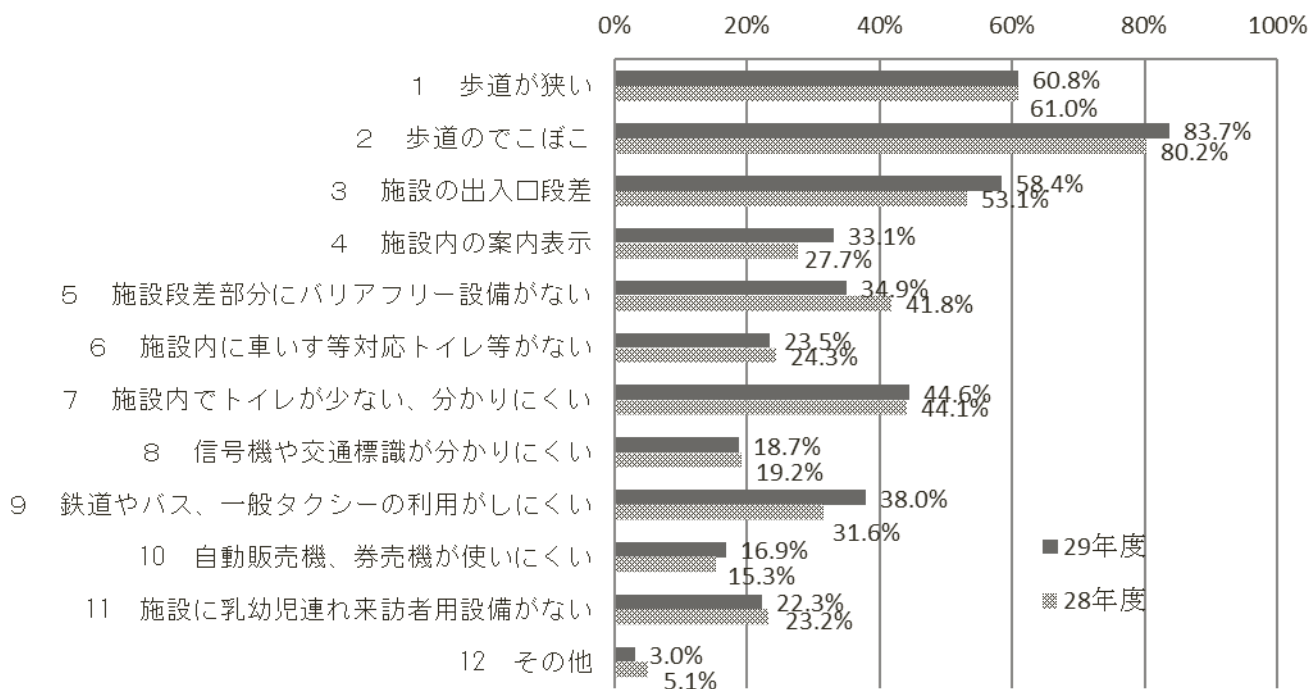
### 【調査結果】

「よくある」または「たまにある」と回答した方の割合は、8割程度あり、まちの中にまだたくさんのハード面のバリアが存在し、多くの方が不便を感じていることが伺える。

## 問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを5つ選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	101	60.8%	108	61.0%
2 歩道のでこぼこ	139	83.7%	142	80.2%
3 施設の出入口段差	97	58.4%	94	53.1%
4 施設内の案内表示	55	33.1%	49	27.7%
5 施設段差部分にバリアフリー設備がない	58	34.9%	74	41.8%
6 施設内に車いす等対応トイレ等がない	39	23.5%	43	24.3%
7 施設内でトイレが少ない、分かりにくい	74	44.6%	78	44.1%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	31	18.7%	34	19.2%
9 鉄道やバス、一般タクシーの利用がしにくい (H28ではタクシーの記載はしていない)	63	38.0%	56	31.6%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	28	16.9%	27	15.3%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	37	22.3%	41	23.2%
12 その他	5	3.0%	9	5.1%
(回答者実数計)	166	—	177	—



### 【調査結果】

歩道、施設の出入り口段差、トイレの数や案内表示、公共交通機関への不満が多く、全体的な傾向は変化していない。

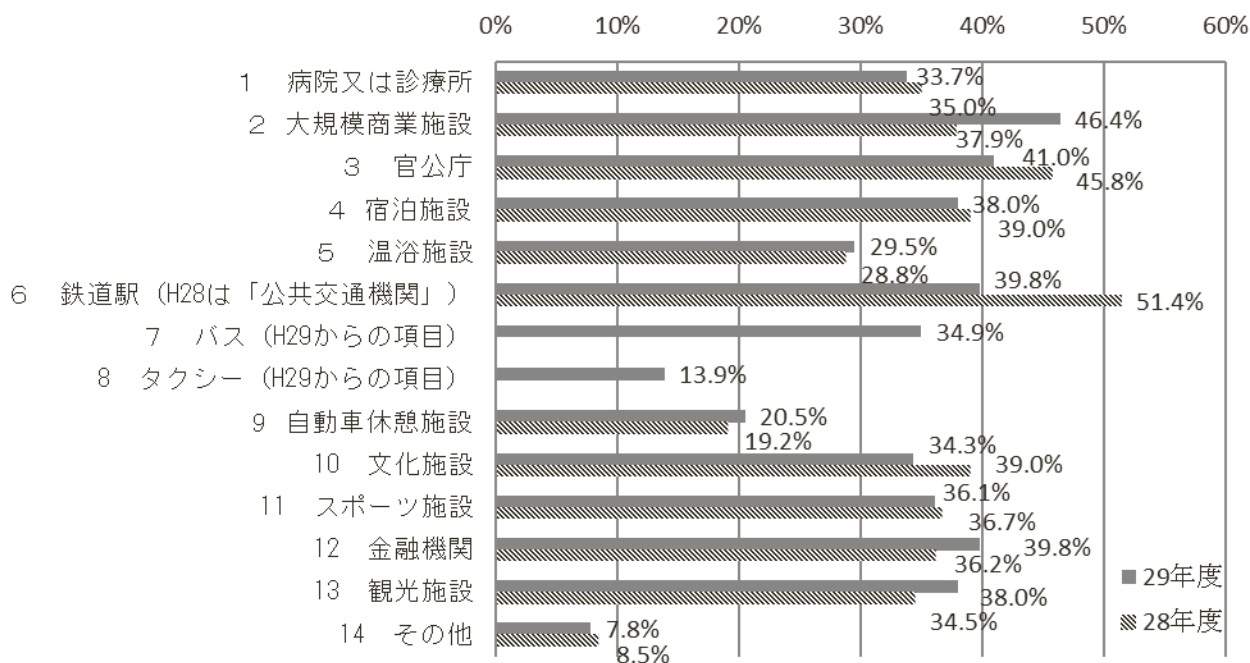
<12その他の内容>

- 駐車場が狭いことと区別が明確でないこと。
- 自転車が歩道を走り、子どもに突っ込みそうになる。
- 公共施設でロビーやソファが古く汚れていたり、テープを貼って利用しているものがある。
- トイレの暖房、便座、温水シャワーになっていない。道路の白線が消えている。歩道上に電柱がある。
- 歩道のある道路は限定的。ブロックのガタつきが至るところに見られる。盛岡駅西側のアイーナやマリオスに行く場合のアクセス路が駅の自由通路や地下に限られている。県外からは、駅改札から大通方面に向かうのに道に迷うことがある。
- 選挙の投票所が学校のため、バリアフリーではない場合が多く期日前投票に行かざるを得ない。

## 問 8

同じく問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリアを感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	56	33.7%	62	35.0%
2 大規模商業施設	77	46.4%	67	37.9%
3 官公庁	68	41.0%	81	45.8%
4 宿泊施設	63	38.0%	69	39.0%
5 温浴施設	49	29.5%	51	28.8%
6 鉄道駅（H28は「公共交通機関」）	66	39.8%	91	51.4%
7 バス（H29からの項目）	58	34.9%	-	-
8 タクシー（H29からの項目）	23	13.9%	-	-
9 自動車休憩施設	34	20.5%	34	19.2%
10 文化施設	57	34.3%	69	39.0%
11 スポーツ施設	60	36.1%	65	36.7%
12 金融機関	66	39.8%	64	36.2%
13 観光施設	63	38.0%	61	34.5%
14 その他	13	7.8%	15	8.5%
(回答者実数計)	166	—	177	—



### 【調査結果】

平成29年度から「公共交通機関」を「鉄道駅」、「バス」、「タクシー」の3項目に分けたところ、「鉄道駅」について4割近くの方がバリアを感じている。また、平成28年度と比較し、「大規模商業施設」に対して感じるバリアについて、8.5ポイント増えている。

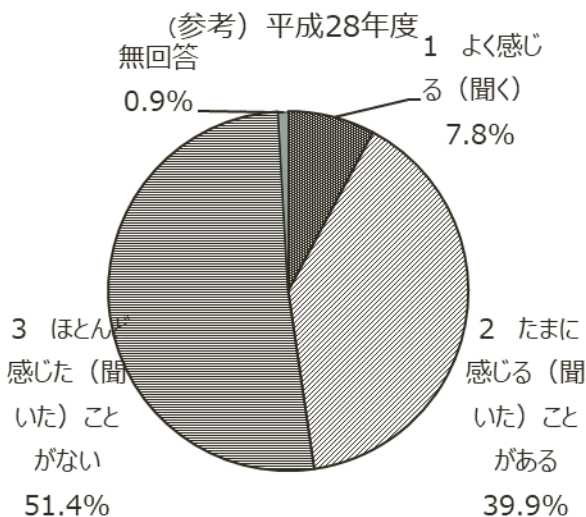
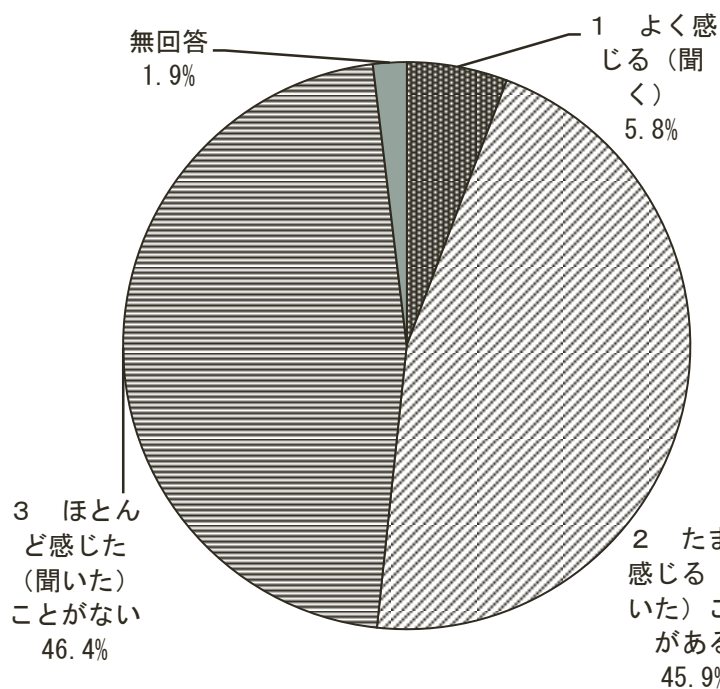
<14その他の内容>

- 歩道全般。平らでなかったり、傾斜がある。駅周辺の歩道。道路と歩道の段差など。
- 一般の飲食店。
- 駐車場が少ない。特に催事、イベントがあるときは困る。
- 県立美術館は全体が行き届いていて衛生的に大変良い。郵便局は駐車場で利用しにくいところがある。
- 鉄道で駅にエレベーターがあるのは限られているので利用できない。

## 問 9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車いす用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車いすの適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞かれたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる(聞く)	12	5.8%	17	7.8%
2 たまに感じる(聞いた)ことがある	96	45.9%	87	39.9%
3 ほとんど感じた(聞いた)ことがない	97	46.4%	112	51.4%
無回答	4	1.9%	2	0.9%
計	209	100.0%	218	100.0%



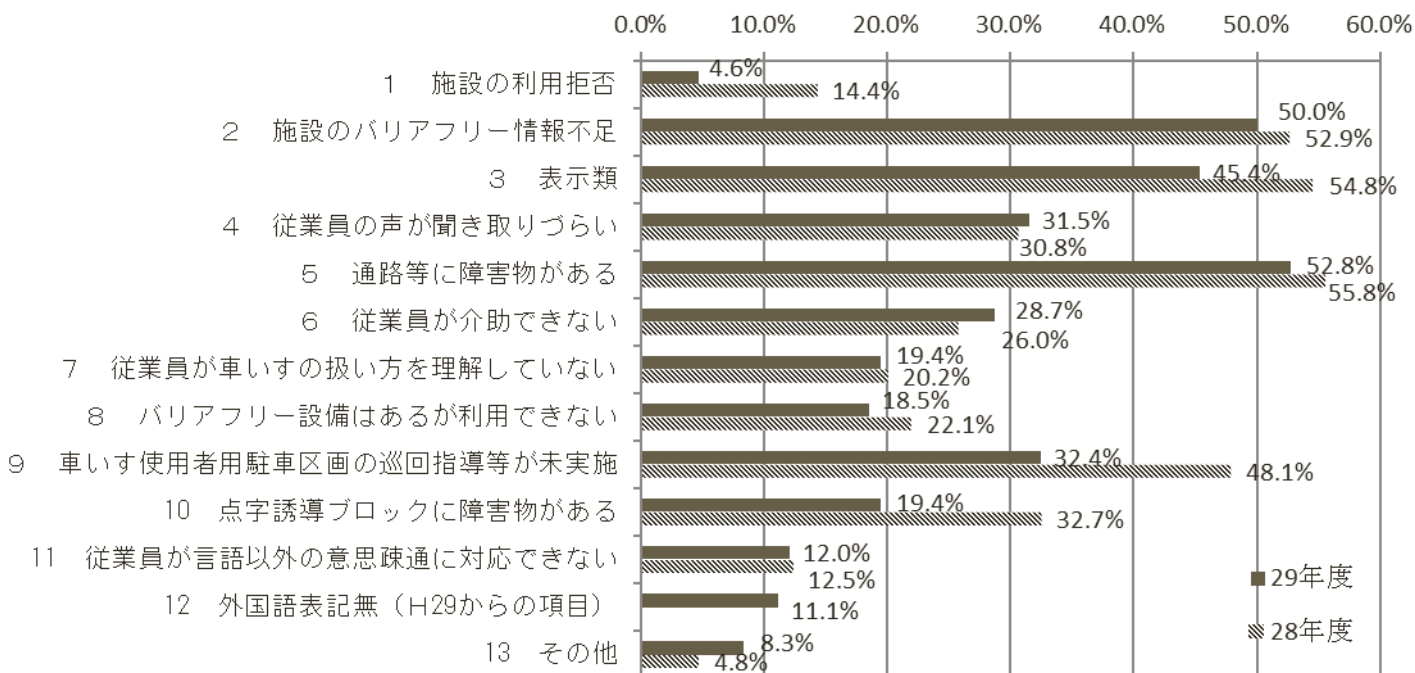
### 【調査結果】

「よく感じる」または「たまに感じる」と回答した方の割合が半数を超え、平成28年度と比較し、4.0ポイント増えている。

## 問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを5つ選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	5	4.6%	15	14.4%
2 施設のバリアフリー情報不足	54	50.0%	55	52.9%
3 表示類	49	45.4%	57	54.8%
4 従業員の声が聞き取りづらい	34	31.5%	32	30.8%
5 通路等に障害物がある	57	52.8%	58	55.8%
6 従業員が介助できない	31	28.7%	27	26.0%
7 従業員が車いすの扱い方を理解していない	21	19.4%	21	20.2%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	20	18.5%	23	22.1%
9 車いす使用者用駐車区画の巡回指導等が未実施	35	32.4%	50	48.1%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	21	19.4%	34	32.7%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	13	12.0%	13	12.5%
12 外国語標記がない(H29からの項目)	12	11.1%	—	—
13 その他	9	8.3%	5	4.8%
(回答者実数計)	108	—	104	—



### 【調査結果】

平成28年度と比較し、減少している項目が多いが、施設のバリアフリー情報、表示類、通路等に障害物があることについて、高い割合となっている。平成29年度は新たに外国語標記の項目を追加したところ、1割程度の方が不便さを感じている。

＜12その他の内容＞

- 手続でたらい回しにされていた。年配の方への配慮がなく丁寧に説明していない。
- 点字ブロックが古く傷んでいる
- 点字ブロックが圧雪で判断できない。床等が凍結し水濡れで転倒の危険性がある。
- 若い女性の早口と高い声が聞き取りにくい。
- 宿泊したとき、帰る日は車いすを手伝ってもらえず、大変だった。
- 街灯がなく不便。
- 従業員がマスクをしているために言葉がハッキリと聞こえない。病院からタクシーに乗ろうとしたところ、車いすから移る際もたついたら、「後ろが詰まってるんだから早くしろ」と怒鳴られていた話を聞いた。
- 車いすの台数が少ないように感じる。車いす駐車場所も分からず利用できない。
- 押し車を邪魔にされた。
- 自動ドアがないところがあり、車椅子のため利用できない。
- 点字ブロックに自転車等があり邪魔。駅のエレベーターを子どももいないしケガもしていない人が使っているため、車いすの人が一回待つことになったのを見た。
- 介助犬がバスに乗っていて女性のスカートに鼻を入れていた、犬だから仕方ないかもしれないが、しつけが必要だと思う。
- 雪がかなり積もっていても除雪が遅いし、職員も駆け付けない。雪かきしても点字ブロックへ積んでしまっている。
- 鉄道を利用したくてもエレベーターがないため利用できないでいる。
- 飲食業や食品製造関連での食物アレルギーへの知識不足。

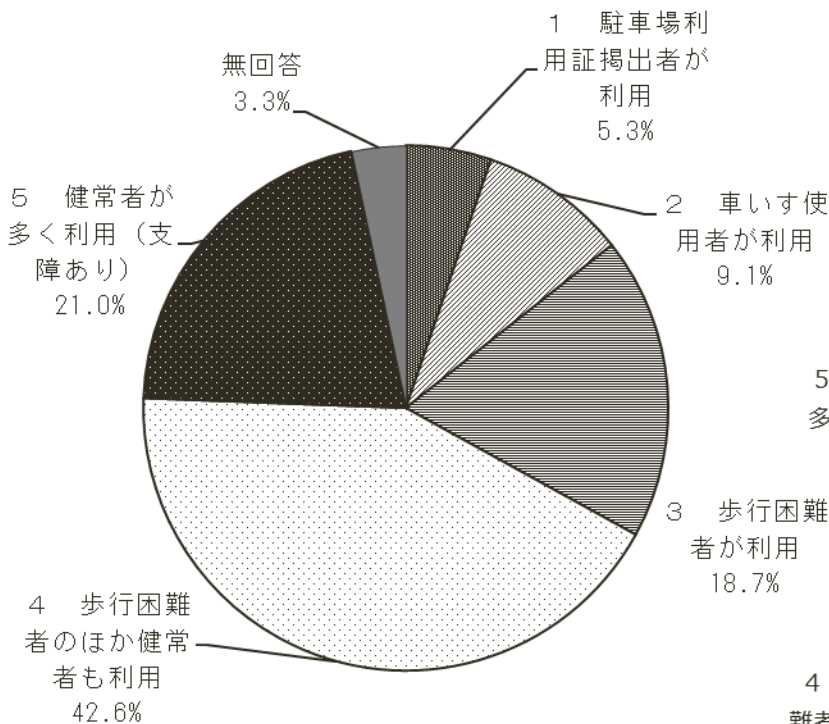


## 問11

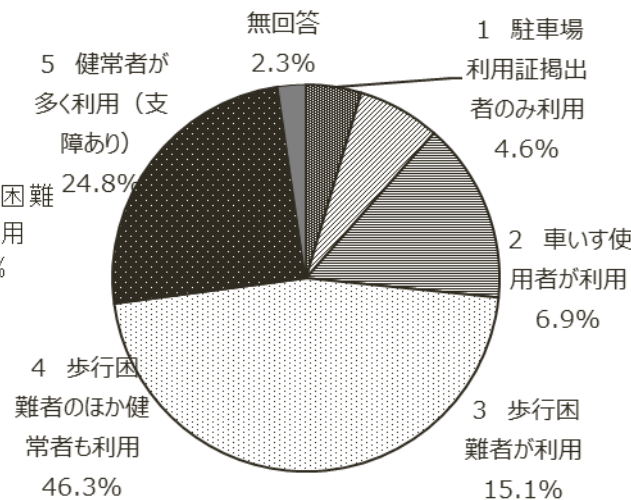
公共的施設には、車いすを使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車いす駐車区画」が設けられています。

最近の車いす駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者のみ利用	11	5.3%	10	4.6%
2 車いす使用者のみ利用	19	9.1%	15	6.9%
3 歩行困難者全般のみ利用	39	18.7%	33	15.1%
4 歩行困難者のほか健常者も利用	89	42.6%	101	46.3%
5 健常者が多く利用(支障あり)	44	21.0%	54	24.8%
無回答	7	3.3%	5	2.3%
計	209	100.0%	218	100.0%



(参考) 平成28年度



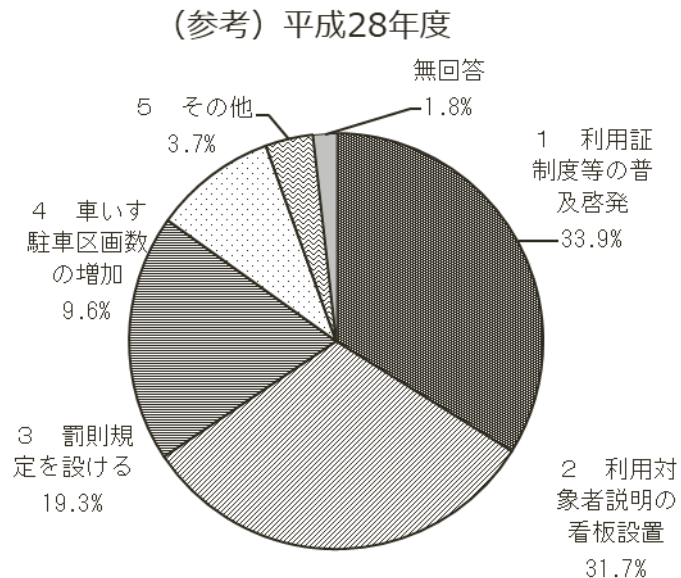
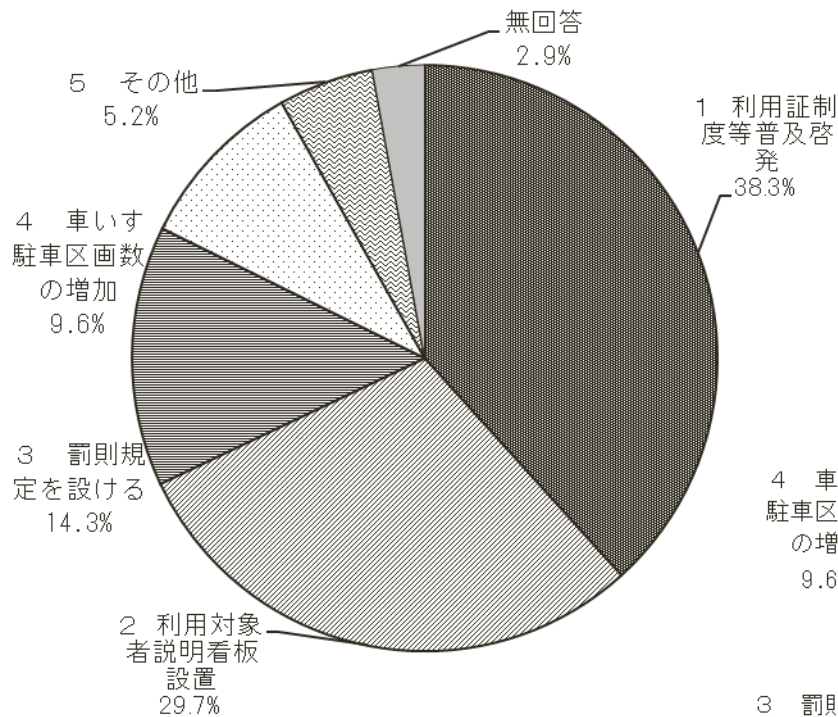
### 【調査結果】

平成28年度と比較して、「歩行困難者のほか健常者も利用」、「健常者が多く利用」が減少しているが、依然として6割以上の方が、健常者の利用があると回答している。

## 問12

車いす駐車区画を車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたらよいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	80	38.3%	74	33.9%
2 利用対象者説明の看板設置	62	29.7%	69	31.7%
3 罰則規定を設ける	30	14.3%	42	19.3%
4 車いす駐車区画数の増加	20	9.6%	21	9.6%
5 その他	11	5.2%	8	3.7%
無回答	6	2.9%	4	1.8%
計	209	100.0%	218	100.0%



### 【調査結果】

平成28年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車いす駐車区画利用対象者の説明看板を設置するよう求める声が多い。

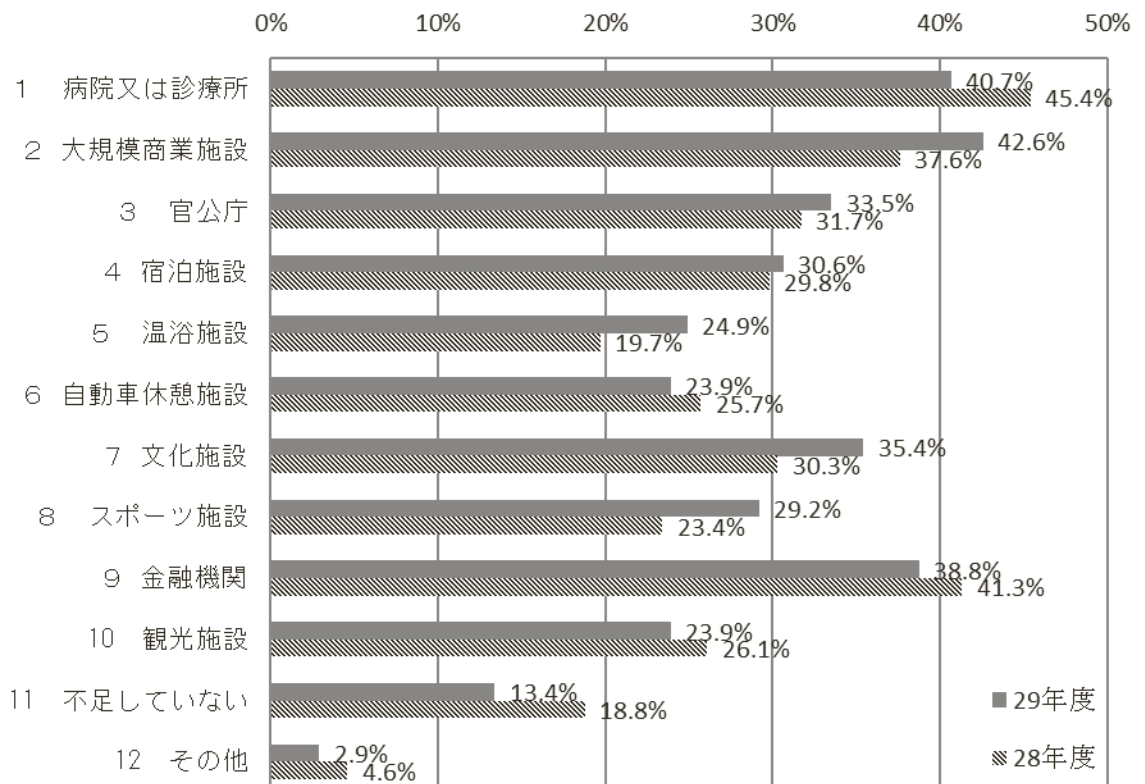
< 5 その他の内容 >

- 啓発活動の強化
- 車いす駐車区画の表示
- 免許証交付時に重点的に説明
- 施設で車いす駐車区画の利用について、PRや設置目的を周知するようにする。
- 家庭内でも情報共有
- 駐車区画の絶対数が不足している。
- 広報に何回も掲載する

### 問13

次の施設のうち、車いす駐車区画が不足していると思われる施設を全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	85	40.7%	99	45.4%
2 大規模商業施設	89	42.6%	82	37.6%
3 官公庁	70	33.5%	69	31.7%
4 宿泊施設	64	30.6%	65	29.8%
5 温浴施設	52	24.9%	43	19.7%
6 自動車休憩施設	50	23.9%	56	25.7%
7 文化施設	74	35.4%	66	30.3%
8 スポーツ施設	61	29.2%	51	23.4%
9 金融機関	81	38.8%	90	41.3%
10 観光施設	50	23.9%	57	26.1%
11 不足していない	28	13.4%	41	18.8%
12 その他	6	2.9%	10	4.6%
(回答者実数計)	209	—	218	—



#### 【調査結果】

大規模商業施設、病院、金融機関の順に車いす駐車区画の不足感が高い。

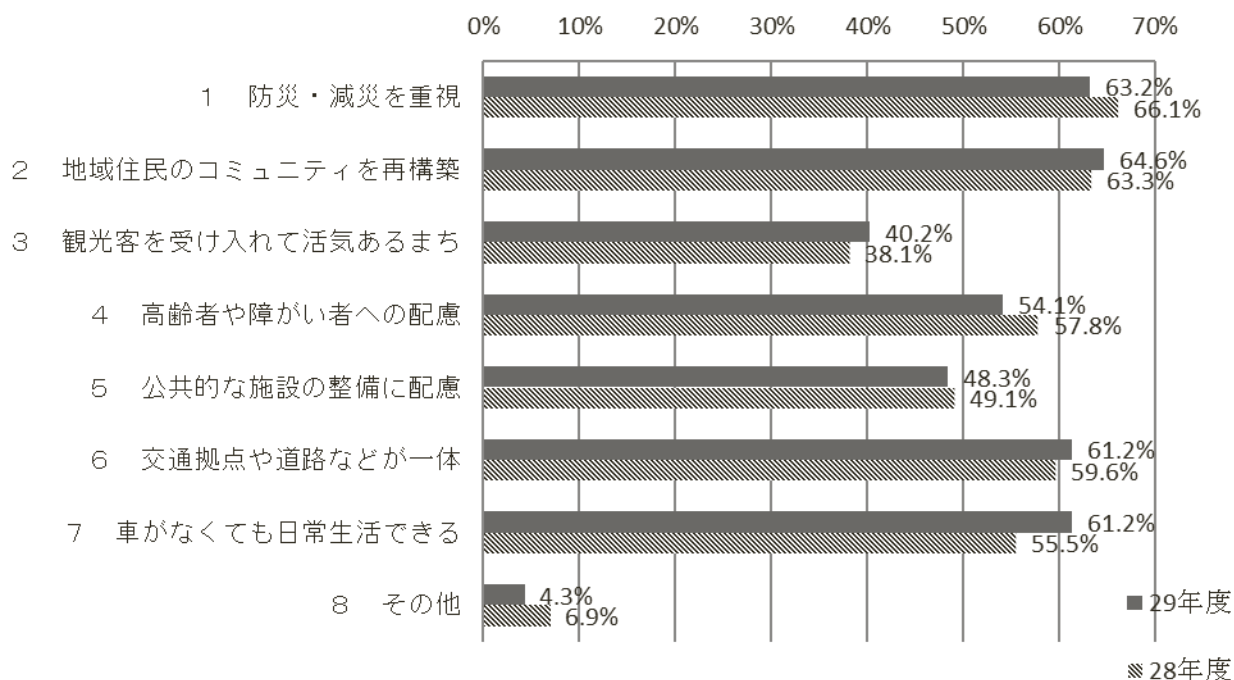
<12その他の内容>

- 不足しているかどうか分からない。
- コンビニでは見たことがない。
- どこも足りていないと思う。
- どちらかというと民間の取組が遅いと思う。
- 鉄道駅周辺。
- どれだけの方が不足しているのか実態が理解できていない。

## 問14-1

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの考え方で重要だと思われることは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	132	63.2%	144	66.1%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	135	64.6%	138	63.3%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	84	40.2%	83	38.1%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	113	54.1%	126	57.8%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	101	48.3%	107	49.1%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	128	61.2%	130	59.6%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	128	61.2%	121	55.5%
8 その他	9	4.3%	15	6.9%
(回答者実数計)	209	—	218	—



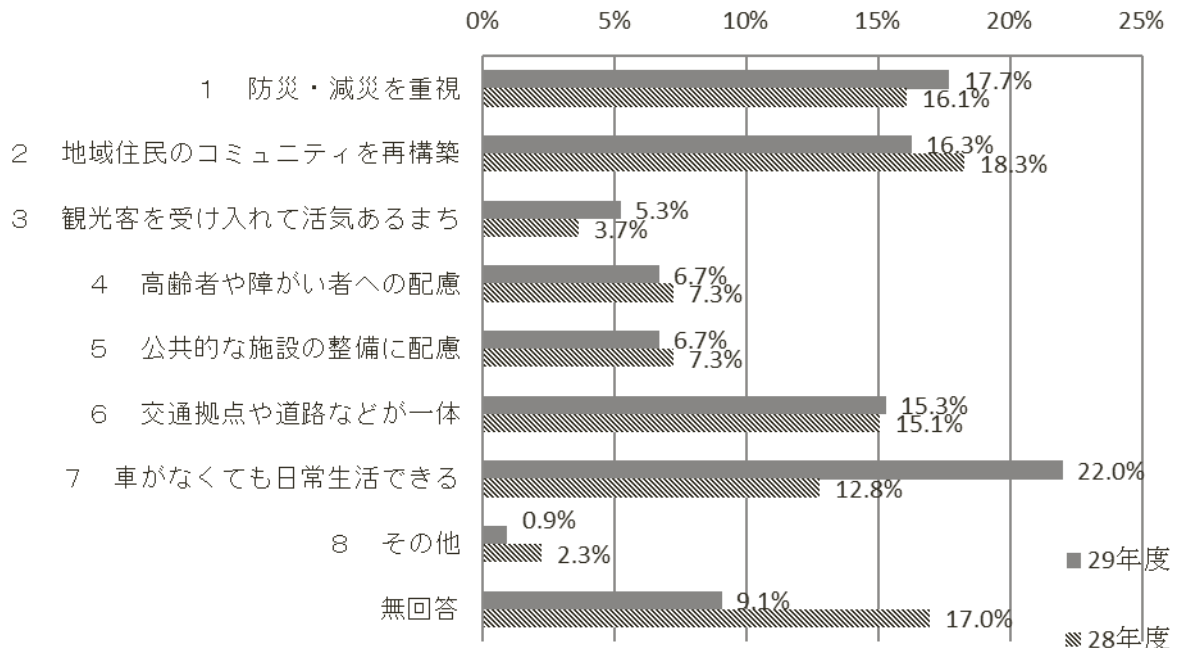
### 【調査結果】

平成29年度は地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくりが最も高く、平成28年度と比較すると、車がなくても日常生活ができるまちづくりが5.7ポイント上昇している。

## 問14-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	37	17.7%	35	16.1%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	34	16.3%	40	18.3%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	11	5.3%	8	3.7%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	14	6.7%	16	7.3%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	14	6.7%	16	7.3%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	32	15.3%	33	15.1%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	46	22.0%	28	12.8%
8 その他	2	0.9%	5	2.3%
無回答	19	9.1%	37	17.0%
(回答者実数計)	209	100.0%	218	100.0%



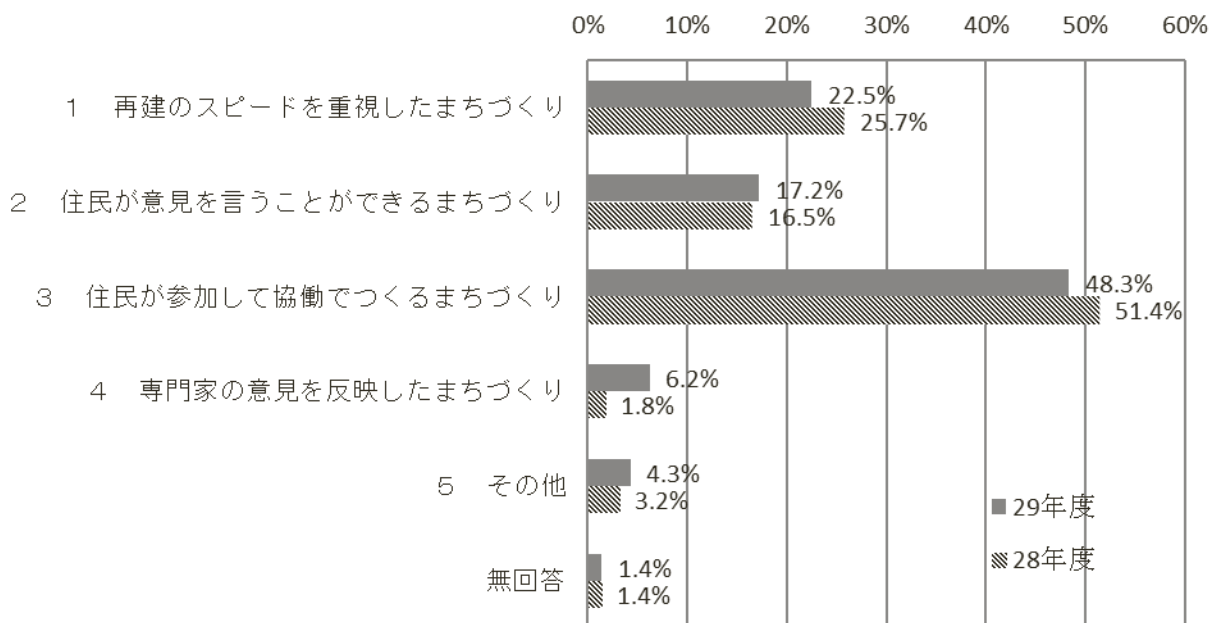
### 【調査結果】

「車がなくても日常生活ができるまちづくり」が最も高く、平成28年度と比較しても9.2ポイント増えている。

## 問15

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの進め方として、特に重要だと思われることは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 再建のスピードを重視したまちづくり	47	22.5%	56	25.7%
2 住民が意見を言うことができるまちづくり	36	17.2%	36	16.5%
3 住民が参加して協働でつくるまちづくり	101	48.3%	112	51.4%
4 専門家の意見を反映したまちづくり	13	6.2%	4	1.8%
5 その他	9	4.3%	7	3.2%
無回答	3	1.5%	3	1.4%
(回答者実数計)	209	100.0%	218	100.0%



### 【調査結果】

平成28年度と同様に、「住民参加・協働」と「再建のスピード重視」、「住民が意見を言う」の順に多い。



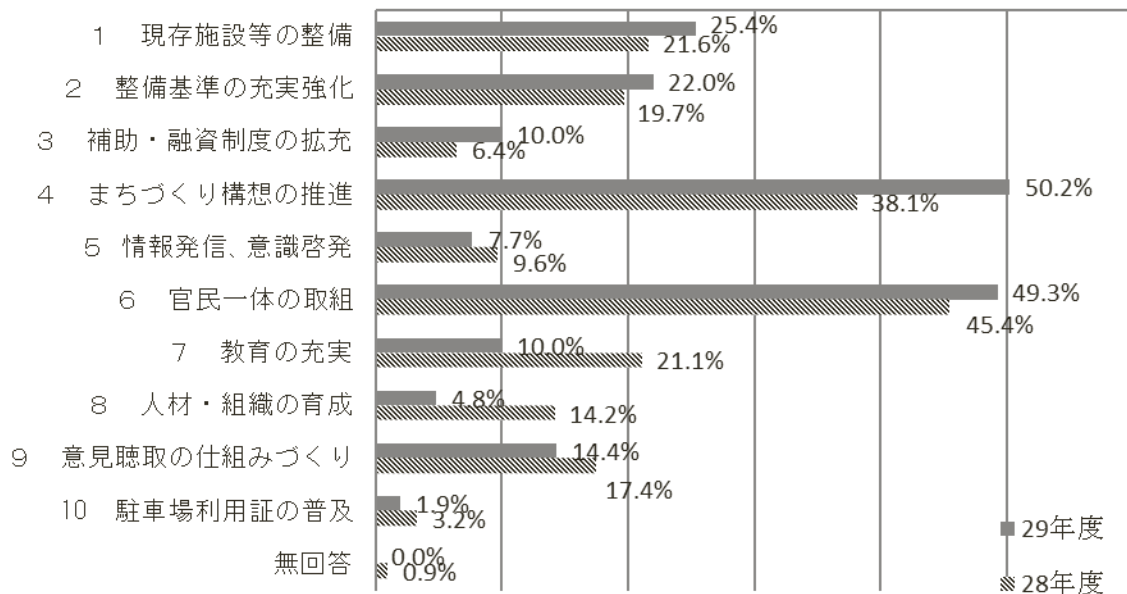
< 5 その他の内容 >

- 学生や異業種のクリエイターなどが他視点で交流会をもって自由な発想が必要。
- 被災者自身の意識改革が必要。
- 高額な専門家や第3セクターなどの業者を入れなくて市職員と住民でまちづくりした方が良いと思う。
- 住民に本当に必要な建物を建て、税金を大切に使ってほしい。
- 電線の地中埋没。土地区画整理の実施が必要。
- 住民の意見、専門家の意見、どちらも大事で、それをまとめるリーダーがもっと大事だと思う。
- 女性や高齢者だけを特別扱いしないこと。
- 車を所有していなくても、生活ができるようなまちづくり、買い物しやすい商業施設の集合、サービスが必要だと思う。

## 問16

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思われることは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	29年度		28年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	53	25.4%	47	21.6%
2 整備基準の充実強化	46	22.0%	43	19.7%
3 補助・融資制度の拡充	21	10.0%	14	6.4%
4 まちづくり構想の推進	105	50.2%	83	38.1%
5 情報発信、意識啓発	16	7.7%	21	9.6%
6 官民一体の取組	103	49.3%	99	45.4%
7 教育の充実	21	10.0%	46	21.1%
8 人材・組織の育成	10	4.8%	31	14.2%
9 意見聴取の仕組みづくり	30	14.4%	38	17.4%
10 駐車場利用証の普及	4	1.9%	7	3.2%
無回答	0	0.0%	2	0.9%
(回答者実数計)	209		218	—



### 【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」「官民一体となった取組」が多い。平成28年度と比較すると「まちづくり構想」は12.1ポイント高くなっている。また、「教育の充実」が11.1ポイント減少し、「人材・組織育成」についても、9.4ポイント減少している。

- 問17「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。
- 小学校や中学校での取組もバラバラな感じがするので、県内小、中、高を通して続けられる活動が必要だと思う。
  - 安心して年をとれるまちになってほしい。科学技術の進んだまちになってほしい。野球の公式戦のできるドーム施設を作ってほしい。
  - 少子高齢化が進む中で、子どもから老人まで一体となって協力協同して活動を広げていく必要がある。
  - 地域の人達が利用しやすい施設やマナーの育成が大事だと思う。
  - 行政と民間が一体となること。
  - 大型商業施設の駐車場は、盆、正月になると障がい者マークに関係なく駐車している。
  - 高齢者が自立した生活ができるだけ長くできるように生活支援窓口を充実してほしい。
  - 「車いす駐車区画」を利用している方で証明書が分かるように掲示していない方がいる。注意したりすると自分は該当者だというのが、他人は分からないので明記するべきだと思う。使用する方にも意識をきちんと持ってほしい。
  - 行政の情報を発信するとともに、住民の私たちも自分のこととして参加するまちづくりが必要。
  - 人にやさしいまちづくりはなかなか形に表すのが難しいと思うが、日々、良くなっていると思う。しかし、物ではなく、心のやさしさが重要だと思う。幼稚園、小、中、高校生など、小さい時からの心からのやさしさを育てていく道を作ってほしい。昔のように子どもたちは地域で育て、高齢者が教えていくのが理想だと思う。
  - 細やかな配慮を行うと大きく経費がかかることと思うが、長い目で見て、誰もが平等に、その地域の中で活動できるようになってほしい。
  - 母が車椅子を使用して生活しているが、日常の生活を送る上で、スーパーや観光施設、ホテル等は、車椅子等で移動する際、まだまだ不便を感じることも多い。既存の施設も含め少しずつ改善していただけると外出もしやすくなると思う。また、せっかく、設置されている駐車スペースに、それ以外の方が停めている場合も時々あり、啓発の活動も大事。
  - 「ひとにやさしいまちづくり」は大事だと思うが、全ての人が満足するようにはできない。それぞれ価値観が違うし「やさしさ」と感じる物差しの長さも違う。年度毎に重点を替えて取り組んでも良いと思う。本当に大変な人は誰で、本当に支援しなければいけない人に目を向けてもらえたら良いと思う。
  - ひとにやさしい、「まち+ひと」づくりが大切だと思う。
  - 車いす駐車区画の利用者で妊婦等歩行困難な人とあるが、車いす障がい者の方々にはマーク（車につける）はあるが、妊娠中で、切迫流産のおそれ等医師からの診断がある場合、マーク又はステッカーなどで表示できないか。
  - 「ひとにやさしいまちづくり」と言うのは簡単だが、難しい。一人ひとり持っているハンディキャップは異なるし、レベルも異なる。期待する支援も異なる。でも一人一人が互いを思いやる心を持つことが大事かと思う。
  - 道路の路肩にポールが設置されていない場所があり、積雪量が多く除雪がまだ来ていないとき、転落の危険がある。
  - アンケートを毎年実施しているが、要望や意見が出されても中々実行、実現されていないことが多々見受けられる。できるものから着実に改善していくことが必要。

- コンパクトまちづくりにより、大変便利になったが、障がい者には、バリアフリーが足りないと思う。
- 素晴らしいと誰もが言える施設及び景観が必要。
- 障がい者が自立できる環境をつくるのが大事。障がい者を受け入れる職場が増える施策が必要ではないか。
- 職場には障がい者の方も数多くいる。職場に障がいのある男性が一人で来て暴れ出したときは、なぜ家族がほったらかしにしているのかと感じたことがある。しかし四六時中見守るのは無理である。男性が暴れると、女性では手に負えない。地域は過疎化、高齢化が急速に進み、見守れる環境にはないと感じる。
- 障がいのある人が生活しやすいまちとは健常者にとっても生活しやすいと思うので、「ひとにやさしいまち」になってくれたらと思う。
- 「公」と「民間」が力を合わせて、意見、要望を出し合い「ひとにやさしいまちづくり」の目的について考え進めていく必要があると思う。
- 町を歩いていると、健常者でも、つまづいたり、転んだりと段差があると危険。マナーを守り、自転車の方はスピードを出して走らないよう、指導してほしい。
- 施設、設備ではなく、人が人にやさしく対応していくことで解決できることはいっぱいあると感じる。
- 高齢者、子育て世代、外国人、それ以外の人も住みやすいまちならば、自然に人が集まっているいろんなことに取り組む人たちも自然にできて、より、その地域に合った住みやすいまちになっていくと思う。自分たちが思いやりを持って活気のあるまちをつくっていける環境になれば良いと思う。
- ハード面だけでなく、人と人とのつながりが保てるソフト的なまちづくりを望む。建築面ではこれから少子高齢化を迎え、コストがかかっては次世代の税金が高く降りかかるため、ソフト面で人がつながりやすく助け合いやすいコンパクトシティのための人脈づくり、助け合いの仕組みを構築してほしい。
- よく「公共機関を利用しておでかけください」、という文面を目にするが、バス料金、バス通路、発着時刻が利用しやすいと大いに効果があると思う。バス停をバスの形を利用して明るくしてほしい。意識調査することによって、地域、まちのくらしについて考えることができる。
- 病院の身体障がい者駐車スペースが少ない。高速道路のサービスエリアや道の駅の身障スペースのように、屋根を設置するべき。乗り降りに健常者の5倍以上かかる人が雨や雪に濡れながら、というのは酷だと思う。タクシードライバーをしているので、盛岡駅の「IGR盛岡駅」を高齢者や身障者がタクシーで利用する場合、目の前がバスターミナルで直前まで車を乗り入れできず、やむを得ず道路沿いで降車してもらい、不便である。歩道には段差があり車道との堺にはチェーンが張ってあり、長い距離を歩かせてしまい、改善が必要。県の方でも視察してほしい。
- 所有していた土地が津波に遭い、その後、何回も相談とか呼ばれたりして出向いているが、その度に業者の人が3人も対応してくれる。ありがたいが、かなりの無駄なような気がする。他のことでお金を使ってほしい。
- 移動しやすく、分かりやすく、明るいという3つを意識してまちを作ってほしい。
- 大型スーパーのテナントでフリマイベントをしてほしい。車がないので移動スーパーに来てもらいたい。
- 後期高齢者で外出したいが、酸素吸入する必要がある辛い。
- 点字ブロックが雪に埋もれていて目の不自由な人が歩きにくいと思うので、除雪を管理する人がいると良いと思う。

- 高齢化社会が急進し、今後益々必要性が求められると思うが、同時に財政がどんどん悪化している中でどれだけのことが実施可能なのか慎重に検討するべきである。
- 老人が多く、故郷が20年後あたりには消滅してしまう町に上がっているとニュースで知った。私の住む町内の8割が65歳以上で、今建設している災害復興公営住宅も空室が多くなっていくと思うと高齢者にやさしく、安心して暮らせる町を作れるのか不安である。町を出る人たちも少なくない。
- 高品質を義務付けると一部の地域以外は不採算で消えていくと思う。弱者でも良い環境で暮らせることを望むが、弱者に良い環境を提供できない地域や企業が滅ぶような思想には反対する。要介護5で末期は障がい者になった祖父と暮らしていた時期もあるが、病院等で不便に感じたことはない。
- 高齢化が進んでいく中で、車を使わなくても不便のない社会だったら良いと思う。
- 道の駅で足の悪い高齢者を障がい者マークの場所で車から降ろしただけで、一般の人から注意されたことがある。
- 今も十分にできていると思う。
- 頑張っていると感じる。良くなっている。
- 高齢化社会のことを考えると「ひとにやさしいまちづくり」というのは、とても大事なことだと思う。一人ひとりやさしい気持ちで人に接することができれば良い。
- 人にやさしいということは、障がいのある方、妊婦の方、何らかのハンディのある方等様々な人にとって便利でまた行きたくなるようなところだと思う。
- 目の不自由な方が線路に落下する事故があった。白い杖を持って動いている人を見ると本当にハラハラする。電車利用者は学生が多いので、高校とかでそういう方の声かけの教育も必要では思う。携帯電話に夢中な人が多いので無関心で見過ごされ、声をかけづらいという消極的な状況でも、常日頃学習しておけば、いざというときにアクションができると思う。
- 他人への配慮ができるよう、個人の意識をいかにレベルアップするかが重要。
- 人口減少という大問題が見えている現実を見通すこと。
- パブリックコメントを広く広報することと、求めやすい環境づくりをすること。住民の身近なところや、公民館などにその手段（ハガキなど）を常備しておくこと。
- 沿岸で震災前より新しくおしゃれな建物が建ってきて、新しくなった街並みに驚いている。ただ、復興事業が終わり、人がいなくなるとこの町は大丈夫なのかと心配がある。仕事がなければ人も減り、立派な建物だけ残っても仕方ないと思う。人口に合わせた小さなまちづくりをし、その分の予算を企業発展に充てるとか柔軟な予算づくりができれば良いと思う。
- 学校教育にも導入していくべきだと思う。
- ①県主導で電線の地中埋没（無電柱化）、②トイレの暖房便座、温水シャワーの設置推進、③学校校庭の芝生化、④ダム建設を止め、砂防ダム建設推進、⑤県営施設の各市町村の公平建設。
- 車がなくても日常生活が送れるまちづくりが理想。
- 障がい者、高齢者、性別を問わずにユニバーサルデザインを可能にしたまちづくりを実現すること。現在、岩手県内の現状は、地域の急な人口減少が進んでいる。子育てをする人だけでなく、子どもや高齢者が生活しやすいまちづくりを進めるべきだ。地方や地域の少子高齢化を防ぐためのまちづくりが大切だ。

- 「ひとにやさしいまちづくり」という言葉は、だいぶ以前から聞いているが、若いころは少々不便なことがあっても大して気にしなかった。いざ、自分が60歳を過ぎて要介護、難病にかかると、身に応える。最近やっと物事は相手の立場になってみるのが一番ではないかと思う。
- 最近のテレビで核シェルター設置について報道されているが、設置率が韓国で30%なのに、わが国は0.02%というのには大変ショックを受けた。都市計画を立てるときにこのことも考えてみるべき。
- 「ひとにやさしい」の意味合いが人それぞれだと思うので、いろいろな年代の人から意見を聞くこと。
- 障がい者の方にも介助犬の行動を把握して、周囲に迷惑をかけないようにしてほしいと思う。犬がバス内で乗客に迷惑をかけているのを見た。訓練しても犬は犬なので、飼い主がしつけに最も気を付けなければならないと思う。
- 「ひとにやさしい」とは高齢者や障がい者だけではなく、自分以外の全ての人への「心づくし」だと思う。日本では「五輪」誘致の際、「おもてなし」を前面へ押し上げPRした経緯がある。県・市単位でもその心を「一人ひとり」が自覚して、一日一日を有意義に生きるべきであると思う。物理的ないわゆる「枠」づくりから入る現体制、もしくは県・市などの組織には、本当の意味での「ひとにやさしい」まちづくりの定義を理解しているか、疑問である。我々一般人が日々感じる「ありがたさ」は日常の些細なことであっても、「感謝」を忘れない心が必要。
- ひとにやさしいまちづくりと言うが、行政ではなく、一般の人たちにも理解を求めて、関心を持ってもらうことが大事だと思う。私の住んでいるところもそんなまちになってほしい。
- 「ひとにやさしいまち」はハードの面のみでなく、住民の満足度を高めることが欠かせないと感じる。首長をはじめ、議員、職員の皆さんの意識が問われるのだと考える。
- いつでも心が穏やかに過ごせるよう暮らしていきたいと考えている。自分の気持ちが落ち着いていれば人にもやさしくなれると思う。
- 時間、お金、知識不足など、余裕のなさが人と人とのつながりを希薄にしているのではと感じる。老人だけでなく、一人暮らしは増えてきていると思う。自分を中心とした生活は、一方的な見方が多く、日常の生活で気づく事柄も少ないと思う。難しいことだとは思いますが、老人や子どもに限定せず多くの人が地域と関わり、人とつながる行政をお願いしたい。
- 住宅地の通学路では、制限速度を30キロくらいにしてほしい。
- 出先のあらゆる場所に、感染症対策の消毒液があって、とても良いと思う。マスクについては風邪やインフルエンザに罹っている方は着用してほしい。スーパーの食品コーナーで、量り売りの食品に向かって繰り返し咳をしている人を見かけた。関東で感染経路が不明のO157で命を落とした方もいるので、「気にしすぎ」では済まされないと思う。
- 制限速度30キロの区域「ゾーン30」をもっと増やしてほしい。生徒・児童が毎朝・毎夕、相当数、通学する道路にも関わらず、歩道も路側帯もない場所があり、心配です。子どもだけでなく、お年寄りも安心して散歩できる道を確保してほしい。時々、市道を高速道路並みに飛ばす人がいて恐ろしい。
- 車いす駐車区画に健常者と思われる方が平気で車を止めていることがある。自分を含めそれを見て見ぬふりをする今の社会に対して腹立たしく感じる。そのような人に注意喚起させるPR指導がもっと必要ではないかと思う。

●幼児を育てているが、バスで出かけ、子育てサポートセンター、図書館、ショッピングセンター、バスの待合室、駅を頻繁に利用する。子どもを抱っこし、荷物を持って乗るのにステップがあるバスは非常に苦痛だ。これは高齢者もなおさらだと思う。ノンステップバスをもっと普及させるため、県はもっと援助するべきだと思う。公共交通機関の利用を呼び掛けている割に、全く利用者の利便性を考えていないように思う。

●新しいまちづくりの沿岸市町村に対して、県の方からいろいろな提言をしてほしい。少しでもひとにやさしいまちに近づくかもしれない

●東日本大震災津波、平成28年の台風10号からの復興に係る公共設備等はまだ建設されていない。少なくともこれから新しくできる公共施設はできる限りハンディキャップの意見を反映させてほしい。

●制度や条例を整備しても生活者に「ひとにやさしいまちづくり」の意識がなければ推進できないので、多くの機会を捉えて岩手県民はひとにやさしいまちづくりに取り組むんだという意識づくりが大事。

●住民の意見を聞き、ニーズを洗い出し、対応できることを実現していくことがより必要だと思う。

●岩手県立中央病院に付添いで長年通ったが、玄関に車いすがあり、とても助かった。また、ボランティアの方がいたことも、車を駐車場に置く時間もあり、助かった。物も大切ですが、人もいてくれて本当に助かった。

●なかなか考える機会がない。言葉は聞いたことがあっても、それ以上を求めない環境にいたことが分かった。県のPRが少ない。

●PRする。

●少子高齢化社会がより一層進んでいくので、市街地の再開発によるコンパクトシティ化や市街地に人口が回帰するような仕組みづくりを早急に作ったほうがいいと思う。

●ベビーカーを利用しているときに感じたことは、少しの段差や道路が平らでなく大変だった。ベビーカーでもそう感じるのなら、車いすはもっと大変だと思う。道路の整備を定期的に行ってほしい。

●子どもが生まれたり、車いすの介助の機会が増えることで、不便さに気づいた。車いす駐車区画は半分くらい適正に利用されていないと感じる。

●今回のアンケートについてのことではないが、過去の意識調査報告書を読んで実に多様な意見があることを知った。様々な質問に対してポジティブあるいはネガティブな意見それぞれあることを特に自由記入欄の報告で感じた。このように、多種多様なアンケート結果がどのように活用されているのか、気になるところ。

●何度も言っているが、県庁、市役所、合同庁舎におけるバイク、自転車、車の駐車場がない。特に夏は職員が占有している。使っていない物もあり、整理すべきといつも言っているが、改善されていない。

●条例や推進指針を策定しても公共的施設を直接整備する担当部がきちんと受け止めているのか。条例の担当課は保健福祉部でも、土木や都市計画担当部へ徹底しないと意味あるものにならない。アイーナ等へのアクセスだけでなく、建物（アイーナ）のエスカレーター的位置（特に図書館までの3Fへのアクセス）は乗降りし、歩いてまた乗っていくようなタイプに大変不便を感じる。県の施設ではないが、市立図書館や病院では、エレベーターがあっても、新旧の施設双方共に人にやさしいづくりではない。条例を策定したら、その実効性の担保が必要。すでに実施されているとは思いますが、建設部の設計要領などに反映すべきと思われる。

- 妊婦、小さい子どもがいると、どこへ行くにも大変。一人ならまだしも、二人、三人と子どもを持つ方は大変。障がい者、老人も大切ですが、子どもたちの安全も考え、入り口に近い場所に駐車スペース（専用ではなく優先）をもっと増やしてもらえたら、もっと子育てが楽になるのでお願いしたい。県民の方々に分かってもらうのも大切だと思う。
- 混雑時に公共的施設の車いす駐車区画に駐車してしまう人には、罰則を設けるしかないと思う。本来ならば良心があればそういう問題は起きないはず。思いやりの心を育てられたら良いのと思う。
- ユニバーサルデザインの考えを誰もが気に掛ける世の中になることを願うし、自分の中で啓発していきたい。車いすマーク（国際シンボルマーク）の正しい意味を知っている人が少ないように思う。駐車場の不正使用と思われる車を見かけるが、良い解決策を見出せず心苦しく思う。
- 相談窓口での気軽に相談しやすい環境づくりも必要。イベントなどで楽しみやすい場所作りで活気がでるまちづくりが必要。
- バス鉄道も公共的施設と呼ぶならば、その設備面での整備にもっと自治体が協力的に進めるべき。バスも鉄道もガラガラで儲かるはずがない地域だと思う。
- 行政と民間が一体となってまちづくりの検討を行い、反映することが重要と考える。
- バリアフリーは障がい者や高齢者をターゲットにした意見が多く見られるが、子どもの利用についてもっと考慮した方が良いと感じる場面が多く見られる。通学路の悪条件や、施設利用時の子ども目線が足りないと感じることがある。
- 少子高齢化の波は、ものすごいスピードで私たちの周りにも迫ってきている。高齢化、即ち障がいが増えるということ。車がなければ買い物にも行けない、車があっても運転できなければ病院へも行けないという現実がある。
- コミュニティバスのような安価で巡回型のバスが、1時間に1本程度回って、商業施設や病院を巡り、高齢者や障がいのある方、妊婦さんなどが利用しやすい、暮らしやすいまちになればと思います。沿岸部は、集落が離れているので、特に必要性を感じる。
- 労働人口の減少は重大な問題であり、即解決すべき事項である。高齢者であっても労働内容によっては十分対応能力がある人もいると思う。希望によって労働可能な職種につけるようその場を与えてほしいと思う。
- ユニバーサルデザインについての学びが必要だと思う。バリアフリーとの違いとか専門的な知識が必要なので、中途半端なものを作られると、障がいの違いで利用できない場合がある。例えば、バリアフリーで段差がなくなっても、目の不十分な人には危険になったりします。万人に安全なものをつくるには十分な検証が必要。階段の手すりとかも検証が必要。
- 「ひとにやさしいまちづくり」というのは障がいを持った人や妊婦だけでなく一般の人にも不可欠であると考え。特に震災や防犯などでは「女性や子ども、高齢者を守ろう」とだけアピールしているが、男性にも障がいを持った人も居れば一般的に機能面やや問題のある人もいる。障がいや一時的に機能面で問題のある人を思いやるのも大事だが、一番は性別や年齢に関係なく誰にでもやさしいまちづくりをしてほしい。
- 現在進めている県の事業計画をスピード感を持って進めてほしい。



●大型ショッピングモールが、近年多くなってきているが、高齢者にとっては、遠くにある車の運転が大変という意見や、モール内が広くてものを探すのに大変と聞くことがある。高齢化を迎えている今、車を所有できない高齢者、所有できない生活レベルの人でも無理なく楽しく生活できることが求められているのではないかと。税金をかけてやるのなら、弱い人に合わせた、やさしいまちづくりをしてほしい。

●予算の確保が難しい中で、技術的なハードルがなくなるようにこれからも自分自身精進したい。

●超高齢社会・人口減少社会・人生100年時代に社会が大きく変わり始めていることを住民が理解し、自分も障がい者になる可能性があると考え、「ひとにやさしいまちづくり」は住民が「ひとにやさしいところを持つ」ことが大事だと思う。色々な取組も住民の意識を変え、行動変容を起こすようにならないといけないと思う。

●資金が足りずに再建できずにいる人が多い中、国は何処まで助けてくれるのかと思う。国からの補助金を出してほしい。

●施設整備が必要（高齢者、保育所など）。

●人にやさしい駐車場利用証を持っているが、店側が勝手に止められないようにしているので、諦めている。

●高齢者が増えてきて、より一層、暮らしやすいまちづくりの必要性は高くなる。岩手の人は、あまり口に出して意見を言う方ではないが、スーパーマーケットのお客様の声用紙にもバリアフリーの内容が書いてあることが多いため、それらを行政と協力して解決するなどしても良いと思う。高齢者以外にも、障がいを持つ人への理解、無意識のうちにしてしまう差別などがなくなるような内容を広報に掲載し続けてみるのはどうか。

●今後、さらに少子高齢化が進む現状を踏まえて、無駄のない、本当に必要な物だけに正しく税金が使われるように真剣に考え、実践してほしいと思う。10年後、20年後の岩手の姿、あり方をイメージし、子ども達が夢と希望を持てるよう、主役は県民、一人ひとりが故郷岩手の大事な財産、これからも岩手で安心して活躍できるような環境を、皆で意見を出し合って、作っていくべき。遠慮せず、もっと岩手の現状を中央省庁に陳情し、国と地方は連携し合う必要があると思う。

●机上の空論ではなく、実体験に基づいた体制を整えてほしい。